

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

1

January
2026

山形県中小企業家同友会

月刊 同友 やまがた

謹賀新年



山形県中小企業家同友会・経営指針委員会

経営指針をつくる会



第30期経営指針をつくる会発表会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をむす
中小企業経営者の全国組織

2025年度スローガン

40年の歴史を礎に、
21世紀型企業づくりで地域と共に未来をひらこう

令和8年

新年のご挨拶

山形県中小企業家同友会

代表理事 川合 勝芳

代表理事 菅原 茂秋

代表理事 後藤 智樹



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より同友会運動の発展にご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、山形県中小企業家同友会は、昨年、設立40周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、幾多の経済危機や環境の変化を乗り越え、バトンを繋いでくださった諸先輩方のご尽力、そして何より、地域に根差し真摯に経営と向き合ってきた会員一人ひとりの歩みの積み重ねの賜物であり、深く敬意を表するとともに心より感謝を申し上げます。

40周年を機に、私たちは「山形同友会10年ビジョン」を策定し発表いたしました。人口減少や人手不足、産業構造の変化など、先行きの見通しが難しい時代にあっても、同友会が果たすべき役割を明確にし、「人を生かす経営」を軸に、企業の持続的発展と地域社会への貢献を両立させていく決意を新たにいたしました。このビジョンは、単に未来を予測するものではなく、私たち自身が未来をつくっていくための指針であります。

さらに来年度に向けた大きな取り組みとして、これまで任意団体として活動してきた山形同友会を、一般社団法人として法人格を持つ組織へと移行する準備を進めております。これは組織としての社会的信用を高め、より安定的で継続性のある活動を実現し、次世代へ同友会をしっかりと引き継いでいくための重要な一歩です。

40年の歩みを礎に、次の10年、さらにその先の未来へ向け、会員の皆さまと共に学び、共に成長する同友会であり続けたいと考えております。本年も変わらぬご参画とご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝と各社のますますのご発展を心より祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

経営者としての想いを新たに、スタートに立つ



12月13日、TISカンファレンスセンターにおいて、第30期経営指針をつくる会発表会が開催されました。会場に集う33名の修了生が見守る中、受講生11名は半年間をかけて作成した経営指針書を発表しました。



はじめに、小川大輔経営指針委員長(㈱カーサービス山形 代表取締役)があいさつに立ち、「6か月間、自分の会社、仕事、社員にしっかりと向き合い、これまでの想いや歴史を振り返り葛藤があったのではないか。歴史を正確に理解し、向き合うことで自分が社長としてやらなければならないことが見えてきたのではないかと思います。今日は発表会で一段落ではありますが、学び続ける姿勢を持ちましょう。学びを止めてしまうとよい会社、よい経営者、よい経営環境をつくることは出来ません。経営者は永遠に学び続けることが重要です」と述べました。

今期の経営指針をつくる会は、5月31日に開講。経営姿勢と経営理念の早期確立を目指し、テーマごとに5回の講義とプレ発表会をとおして学びあい、「経営理念」「10年ビジョン」「経営方針・戦略」「経営計画」からなる経営指針書の成文化に取り組みました。

第1講では、㈱山田製作所 代表取締役会長 山田茂氏(中同協経営労働委員長・大阪同友会)を講師に迎え、同友会らしい経営指針と経営者の責任について考えあいました。第2講のテーマは「ビジョンと理念」で、ブレインストーミングを行いながら、自社や地域の10年後を描きました。第3講は、ハンズバリュー㈱ 代表取締役 島田慶資氏、㈱セルヴァン 代表取締役 東海林武氏、㈱カーサービス山形 代表取締役 小川大輔氏の講義から「方

針・戦略」の重要性を掴みました。第4講では、(有)奥山経営センター 代表取締役 奥山享氏と(株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏の講義から、戦略的な「数字」の考え方を捉えました。続いて、社員に伝わる経営指針書とすべく、プレ発表会を行いました。最終講となった第5講では、㈱フロット 常務取締役 五十嵐久仁子氏の講義から「組織づくり」について、社会保険労務士法人ルート企画 代表社員 菊地仁士氏の講義から、労務管理の重要性と雇用する責任について学びました。

同友会型の経営指針書づくりは、講義とグループ討論をとおして、自社のあるべき姿や自社固有の役割を深掘りし、自問自答を繰り返しながら自身と自社の中にある答えを導き出すことが特長です。

自問自答を繰り返し、時に悩み苦しみながら作成した経営指針書を発表する受講生の表情は晴れやかで、社員と共によい会社にするという熱い想いが垣間見えました。



発表を終えた受講生には、小川委員長より修了証書が贈られ、全社一丸体制を目指す新たなスタートを切りました。



最後に、後藤代表理事(寒河江物流㈱ 代表取締役)が、「今日はゴールではありません。経営指針書を作っただけでは駄目で、発表して実践することが重要です。発表するのは緊張します。私も、作成した経営指針書に自信がなく、

やっでは戻してを繰り返して発表しました。社員や銀行の方を前に発表するので、言って実践しないと社長は嘘つきになってしまいます。作成してから19年、毎年発表して、直して発表して、ここまでできました。悩むこともたくさん出てくるかと思いますが、今日がスタートです。行動していきましょう」と述べ、受講生にエールを送りました。

第53回青年経営者全国交流会(青全交)in香川 開催

11月20～21日、第53回青年経営者全国交流会(青全交)in香川が開催され、山形から20名(オンライン含む)が参加しました。また、山形同友会が17分科会を設営し、(株)セルヴァン 代表取締役 東海林武氏が「10年ビジョンで逆境からの大逆転!～社会課題の解決が収益を生む～」のテーマで経営実践を報告しました。

参加者から感想が届きましたので、一部となりますが紹介いたします。



(有)スエヒロ 代表取締役 平形 洋司氏

二日目基調報告 (株)ウエストフードプランニング小西社長 感想
ウエストフードプランニング・小西社長の基調報告は、単なる成功の物語ではなく、幾多の失敗から這い上がってきた赤裸々な記録でした。同じ経営者として、その苦悩と執念に深く心を動かされました。

特に印象的だったのは、創業当初にお客様から言われた「袋のうどんよりまずい」という厳しい言葉を、「神の声」として受け止めたエピソードです。普通なら耳を塞ぎたくなる批判をも成長の糧にする。その柔軟さと素直さが、小西社長の原点なのだと感じました。

その後、多店舗展開や海外事業での挫折を経て「過信」の恐ろしさを痛

感されますが、転機となったのは、ある社員さんの「未来が見えるから頑張れる」という一言だったといえます。この言葉が経営者としての覚悟を決めさせ、故郷・大越町の耕作放棄地を再生するクラフトビール事業、そして「街づくり」へと視座を高めていかれました。

失敗を隠さず、すべてを学びの機会に変えてきた小西社長の姿から、私は「挑戦」の本当の意味を教わった気がします。私も失敗を恐れず、その泥臭い経験さえも同友会の仲間と包み隠さず共有し、共に成長していきたい。そう強く決意を新たにしたい、素晴らしい学びの機会でした。

(株)アクア山形営業所 統括本部長 青木 正芳氏

今回の青全交では、第1分科会「企業づくりと青年部活動は不離一体」に参加し、連絡会すらない時代から前のめりで学びと運営を続けてきた青年部の歴史に触れ、その存在意義と可能性の大きさを実感しました。「活動」は短期、「運動」は世界を変える長期の取り組みだという言葉から、自社のための学びが、やがて地域、日本を元気にする運動へとつながるという視座を得て、自分の一つひとつの行動の重みを改めて感じました。「社員に任せないと会社は伸びない」「トップダウンでは売上1億まで」という言葉からは、仲間と共につくる経営の大切さと、学びをメモし、自社の課題に落とし込み、実践までやり切ることの重要性を学びま

した。また、同友会で早くから学べることは、経営者としての姿勢を正し、全人格の成長につながる大きな役得だと実感しました。「しゃべるのが苦手なら100回しゃべればいい」という言葉には、人前で話すことから逃げず、場数を踏む覚悟を後押しされました。経営指針の発表や数字から逃げずに科学性を高め続けた結果、売上を伸ばした事例にも勇気をもらい、中小企業にはまだ大きな可能性があるかと確信しました。これからも同友会で学び続け、今回得た熱量を自社の経営指針と日々の実践につなげ、「企業づくりと同友会活動は不離一体」であることを自らの経営人生で体現していきたいと思えます。

(株)カーサービス山形 サポート本部課長 小川 雅之氏

目的:全国の青年経営者から刺激を受け、モチベーションをあげ事業に役立つヒントを得る。

感想:初めての同友会の全国大会でしたが、同世代で色々な苦労や成功している方の話が聞けて勉強/刺激になりました。

①広島タクシー会社の社長の報告を聞いた。専務と意見がぶつかったり、社員の事故死でその社員に対してどんな事をしてあげられたか、祖父の代から地域の皆様に支えられてきた等、どんな仕事をするにしても、お客様、社員、家族との関係性が大事だと思った。優先順序は人それぞれの考え方があり正解はないと思う。コミュニケーションは大事ではあるが表面的なコミュニケーションでは意味が無い。相手の事を本気で想い考え行動する事が大事だと感じた。

②20代でうどん屋を創業した社長の話、店舗を増やしたり海外出店で失敗をして1年で撤退など、多くの失敗話を聞いたが、失敗を糧に事業を広げて成功している方だった。挑戦しないと成功も失敗も得られず、挑戦しないままだと「現状維持は衰退」ではないが限りなく失敗に近づいていく。事業領域を広げる難しさと広げる必要性を学ぶ事ができた。

今後は社員、お客様、家族との関わり方をもっと真剣に、相手の事を想い接していく事で必要とされる人間になっていく。また、売上を増やすには新規事業や事業領域を広げていく必要がある。今いる人数でどうやって生産性をあげていくか、また人を増やさないと新規事業も広げられないと思うので、継続して8名前後雇用出来る様な仕事をしていく。

(株)エスパック 代表取締役 佐藤 健太郎氏

先日香川県で開催された全国青年経営者交流会の第17分科会に、東海林社長の体験報告「10年ビジョンで逆境からの大逆転」の座長として参加した。報告の本質は、「経営者の覚悟が会社を変える」「社会課題の解決こそが新たな価値と利益を生む」という二点に集約され、参加者にこの核心をどう伝えるかを考える過程は、私自身にとって大きな学びであった。

とりわけ、グループ討論テーマ「地域から必要とされる企業とはどんな存在か。そのためには何が必要か」を設定するまでに悩んだ経験は、自身の思考の浅さや整理力の不足に気づく貴重な機会となった。討論をコーディネートする役割を担う中で、思いを適切に言葉へ落とし込む力、要点を端的に拾い上げる力、自信を持って堂々と話す姿勢、そして参

加者に伝わるように説明する力など、多くの課題を痛感した。

一方で、これらの反省点は、今後の成長に確実に繋がると強く感じている。地域に必要とされる企業をつくるには、理念・事業の本質・目的地を明確にし、社員と共に考え歩む姿勢こそが重要であり、その実践が会社の好転を生むという東海林社長の報告内容は、改めて自身の経営姿勢を見直すきっかけとなった。

また、山形から20名もの参加があったことは、山形同友会・青年部の存在感と推進力の高まりを実感させ、誇らしい成果でもあった。今回の経験を糧に、次の機会にはより良い座長役が務められるよう研鑽を続けていきたい。

㈱睡眠屋 代表取締役 小寺 祐也氏

昨年、当社には20代の社員が2名入社しました。若い世代がどのような未来を描き、どのような働き方を望むのか。そして、それに対して会社はどのように応え、共に成長していくのか。こうした問いが一層リアルになり、経営者として10年先の姿を示す必要性を強く感じている中で、青全交参加でした。

私が参加した第10分科会「未来を創る!! 実践から見た“理想の先”」は、10年ビジョンの策定を真正面から扱う内容でした。報告では、実践を積み重ねてきた企業の取り組みが紹介され、討論では、全社で将来像を描く難しさだけでなく、自社や地域の課題と向き合い明るい未来を考え続ける姿勢こそが重要、という点が繰り返し語られました。

また、10年ビジョンの策定は“正解を描く作業”ではなく、“社員と共に未来をつくるための土台づくり”であるという学びは、今の自社に最も必要な視点でした。参加後すぐに社内で10年ビジョン策定の場を設け、社員自身の将来像や価値観を引き出しながら、会社としての方向性と重ね合わせる取り組みを始めています。

約10年ぶりの青全交参加は、視野を広げるだけでなく、自社の課題と今後の方向性を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。今回得た学びを実践へつなげ、全社員が胸を張って未来を語る会社を作りたいと思います。

㈱ヤリミズ自動車 代表取締役 鎌水 伸一氏

青年経営者全国集會に初めて参加してきました。今回の会場は香川という事でギリギリまでどうしようか迷いましたが、参加して良かったと思っています。

私は第10分科会に参加。10年ビジョンと社員の幸せをテーマにした報告でした。私自身10年ビジョンのしっかりしたイメージを社員とともに描いておらず、そんな悩みのなかでの分科会選択でした。報告者の10年ビジョンは、ゴリゴリの数値ビジョンを掲げており、6年を過ぎて計画以上の進捗度で歩んできたものの、数字を追いつけた反動で主要な社員の離職が相次ぎピンチを迎えるといった内容でした。そこから経営の本質を見つめなおし、10年ビジョンは単なる目標ではなく、「社員

が幸せになるための手段でなくてはならない」と報告されていたのが印象的でした。

二日目の特別報告では、香川同友会で実施している共有型インターンシップの報告がありました。担当されている先生の報告の後、大学1年生からの報告があったのですが、それに驚かされました。全国から集まっている同友会の青年経営者を前にして、昨年まで高校生だった女性が「皆さんは地域の10年後の未来を考えたことはありますか」とぶち上げたのです。香川同友会と地元の高校が連携した共有型インターンシップの魅力と影響力、そして地域の未来を自分事と捉えて語る若者の報告に感動を覚えて帰路につかせていただきました。

2026 新春交流会のお知らせ

2026. **1.27** (火) 開始 14:00
開場 13:30

会場 パレスグランデール
山形市荒橋町1-17-40 TEL023-633-3313

参加費 第1部(セレモニー・講演・討論): 3,000円
第2部(懇親会): 9,000円

講演テーマ 若者に届く分かりやすい共育で
働きがいの社風づくりへ

敬禮氏は、東京での勤務を経て、北海道の発展に貢献したいと帰郷し、㈱レイジックスを立ち上げました。当初は時代の波に乗り事業を拡大しましたが、私利私欲の経営に陥り淘汰されかけました。その苦境で「人を生かす経営」こそ企業存続の鍵と気づき、労働環境の改善に着手。さらに社員が真の豊かさを実感するには、若い世代にも届く共育の実践が必要と考え、わかりやすい教育指針を基に働きがいのある社風を醸成。逆境を乗り越える全社員一丸の会社をめざしています。

若者や、子育て世代が働きがいを感じる企業づくりのために必要なことは何か、共に考える機会にしましょう。

タイムスケジュール

- 第1部 セレモニー: 14:00~14:20
講演: 14:20~15:50
グループ討論: 16:05~18:05
- 第2部 懇親会: 18:30~20:00

※会費には消費税が含まれております。

講師

敬禮 匡氏
敬禮 匡氏

(北海道同友会常任理事・全道共同求人委員長)

- 設立: 1996年 ■正社員数: 20名
- パート・アルバイト等社員数: 32名
- 資本金: 2,200万円 ■年商: 5億3,927万円
- 事業内容: 海鮮丼を中心とした飲食店「どんぶり茶屋」の運営



2026新春交流会 実行委員長挨拶



㈱マルタニ
代表取締役
長谷川 吉之介氏

この度、2026年新春交流会実行委員長を仰せつかりました、山形支部の長谷川吉之介と申します。どうぞよろしくお願いたします。

新春交流会では、北海道同友会より、㈱レイジックスの敬禮 匡氏を講師にお迎えします。

敬禮氏は通販会社を創立し、時代の波に乗って事業を拡大しましたが、私利私欲の経営が原因で会社は存亡の危機に陥りました。その渦中、同友会で「人を生かす経営」の必要性を悟り、社員が真の豊かさを実感できる「働きがいの社風づくり」へと経営を大転換されました。

本講演では、若手が定着し、社員一人ひとりが躍動し輝く企業となるために、「わかりやすい共育の実践」と「働きがい」をどう結びつけるか、その具体的な道筋を情熱ある変革の事例から学び合います。

全社員一丸となって未来を目指す強い意志と、企業変革の熱量をぜひ会場で体感し、新年から共に熱く学びましょう！

山形支部を中心に、実行委員一丸となり準備を進めております！皆様のお越しを心よりお待ちしております！

第8回理事会報告

◆日時: 2025年12月10日(水)午後3時00分～午後4時50分 ◆会場: TISカンファレンスルーム ◆議長: 阿部副代表理事
◆出席者: (敬称略)阿部、菅原、川合、小川、武内、長谷川、中村、高橋、鎌水、菊地、伊藤、笹林、西塔、東海林、前盛、島田、庄司、平形、大泉、小寺、志田、事務局矢作、芳賀、青木、上遠野

■開会挨拶

菅原代表理事より「40周年記念式典では2035年に向けての10年ビジョンを発表した。これからその実現に向けて具体的な実践をし、活動をさらに活性化させていきたいと思います。2月には東北青年経営者フォーラムが開催されます。1月の新春交流会と併せて、入会候補の方々へ丁寧にアプローチしていきたいと思う。組織を強化し、同友会運動を発展させていきたいので、ご協力よろしくお願いします」とあいさつがありました。

■学習会

「同友会運動発展のために 4. 中同協の組織とその活動」の読み合わせを行い、感想を共有しました。

■報告事項

- 1) 第53回青年経営者全国交流会 11/20～21(香川)20名参加
東海林理事が参加呼びかけの御礼を述べた後、分科会の報告者を担当し、多くの質問が寄せられ学びになったこと、全体報告では香川大学の学生の問題提起から、社員が希望を持って働き、それをしっかりと伸ばせるような社風づくりをしなければならぬと感じたこと、実行委員長の、会員の意識差の課題に対して議論を重ね、理解と納得を積み上げて2千名規模の青全交ができたというお話から、会社も同じく方針を十分に理解し納得してもらえるように取り組むことを学んだと報告がありました。
- 2) 法人化に向けた取り組み状況の報告
川合代表理事より、専門家を交えて定款(案)を検討し、さらに常任理事会で精査して、次回の理事会で検討した定款(案)を提案する予定であること、また定時総会での法人設立の提案などについては、他県の事例も確認しながら進めていくと報告がありました。
- 3) 2025年度上半期会計監査報告
報告書の確認を行いました。
- 4) 2025年度11月月次報告
芳賀事務局次長より報告がありました。
- 5) 2025年度11月月次決算報告
青木事務局主任より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 退会5名 501名

■討議事項

議題1:今年度目標達成に向けて

1) 組織委員会の報告

菅原代表理事より、式典での受付の負担が問題として挙がり、方法を検討すること、全県の10年ビジョンの進捗について組織委員会で話し合うこと、新春交流会を契機に増強活動を盛り上げていくことについて報告があった後、金融学習会の参加呼びかけがありました。

2) 同友会を知る会の予定

日	時	会場	歴史と理念	体験報告
1月16日	15:00	同友会事務局	後藤代表理事	秋葉卓哉
2月24日	15:00	同友会事務局	菅原代表理事	鈴木啓泰

議題2:2026新春交流会について

長谷川実行委員長より、開催要項(案)と予算(案)の提案があり、承認されました。

続いて下記の参加申込状況について報告があり、参加呼びかけが行われました。

支部名	会員数	目標	会員	社員	ゲスト	合計	達成率
山形	239	100	22		1	23	22.0%
寒河江	58	20	2			2	10.0%
さくらんぼ	50	20	20	1		21	105.0%
置賜	62	20	7			7	35.0%
庄内	79	20	3			3	15.0%
新庄最上	17	5	2			2	40.0%
合計	505	185	56	1	1	58	31.4%

議題3:第6回東北青年経営者フォーラム

東海林理事より、下記の開催要項と予算(案)が提案され承認されました。

- 日時: 2026年2月6日(金)13:30開会
- 会場: 山形国際ホテル
- 参加費: 15,000円(第1部:6,000円 第2部:9,000円)
- 報告テーマ: 経営と人—東北協奏曲—
- 報告者: (株)アルファ・コム 代表取締役 佐藤淳氏

議題4:各委員会より

1) 経営指針委員会より

- 「企業変革支援プログラム Ver.2」Je.doyu登録強化・普及月間の取り組み
- 2025年度登録者: 21名(2024年42名)

小川副代表理事より「全国の経営労働委員会でも、会員数の1割程度の登録を目指して欲しいという話があり、60名を目標に掲げている。ただ登録数が多ければよいというのではなく、数値を入力し、自社の課題を見つけて経営指針書に反映させ実践することが重要。ぜひ皆さんの会社で登録をお願いいたします」と呼びかけがありました。

2) 共同求人委員会より

2026共同求人活動について

前盛副委員長より「若者の流出に歯止めをかけ、同友会企業に就職してもらいたいという思いで、様々な学校訪問を行い、担当者と交流している。高卒採用も視野に、霞城学園の合同企業説明会が開催される。また、村山地域の高校生との交流会なども検討中。また、リファーマルやアルムナイ採用も現在広がっており、そこについても学びを深めている。若者を採用しなければ、企業の持続性は失われる。ぜひ一人でも多く共同求人にご参加いただき、採用につなげていただければと思う」と案内がありました。

芳賀事務局次長より「中小企業サミットの募集を行っている。他県の事例では、数社で協力して参加呼びかけをすることで良い成果が出たという話があった。ぜひ多くの参加をお願いします。また、共同求人委員会では年間のフル参加だけでなく、スポット参加やオブザーバー参加の呼びかけをしていく予定」と補足がありました。

■その他

1) 今後の予定

- ・12月11日(木)～12日全国事務局長会議(広島)
- ・12月11日(木)青年部企画事業「MG@研修」第2講(同友会事務局)
- ・12月13日(土)第30期経営指針をつくる発表会(T I Sカンファレンスセンター)
- ・12月17日(水)第2期事務局アカデミー第3講・第4講(Zoom)
- ・12月18日(木)経営姿勢確立セミナー第2講(T I Sカンファレンスセンター)
- ・1月9日(金)～10日(土)第3回中同協幹事会(東京)
- ・1月10日(土)北海道・東北ブロック代表者会議(東京)
- ・1月15日(木)～16日(金)2025年度第2回中同協経営労働委員会(東京)
- ・1月21日(水)第2期事務局アカデミー第7講(Zoom)
- ・1月27日(火)～28日(水)中同協事務局リーダー研修(東京)
- ・1月27日(火)2026新春交流会(パレスグランデール)
- ・1月28日(水)経営姿勢確立セミナー第3講(T I Sカンファレンスセンター)
- ・2月3日(火)2025年度第2回中同協共同求人委員会(東京)
- ・2月6日(金)第6回東北青年経営者フォーラムin山形(山形国際ホテル)
- ・2月16日(月)委員会合同例会(T I Sカンファレンスセンター)
- ・2月25日(火)経営姿勢確立セミナー第4講(T I Sカンファレンスセンター)
- ・3月5日(木)～6日(金)第56回中小企業問題全国研究集会(岩手)

2) 今後の常任理事会と理事会日程について

第9回常任理事会	1月7日(水) 16:00	第9回理事会	1月14日(水) 15:00
第10回常任理事会	2月4日(水) 16:00	第10回理事会	2月12日(木) 15:00
第11回常任理事会	3月4日(水) 16:00	第11回理事会	3月11日(水) 15:00

■閉会挨拶

西塔相談役理事より閉会のあいさつがありました。

新会員
紹介

なかの ちほ
◆ 中野 千穂氏
酒とつまみ せん 女将
小料理屋
山形支部

会員変更

●(株)ハイスタッフ 主任 小國和弘氏
⇒ 営業部次長(山形支部)

同友やまがた1月号 (2026年1月1日発行/通巻394号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2161 山形県山形市大字漆山字大段1865-5 TISビルディング201
TEL (023) 615-8302 FAX (023) 615-8304
URL: <https://yamagata.doyu.jp/> E-mail: info@yamagata-doyu.jp